

私たちが実践する校内見本林の創造 ～地域に開かれた憩いの場を求めて(2022)～

北海道岩見沢農業高等学校 森林科学科2年

西原 佑岳

北田 星楠

田村 秋葉

棟方 煌貴

村上 陽大

研究の背景・課題

【背景】

北海道岩見沢農業高等学校の敷地内にある見本林には、この地域周辺では見ることの珍しいスギやブナ、メタセコイアなどを観察することができます。この見本林は、日頃から本校森林科学科の生徒が樹木の学習をするために利用していますが、本来、一般の方を含め多くの方々に利用してもらおうよう開放しています。しかし、このことを知っている人は本校生徒でも少なく、本校の見本林を利用する人は少数となっており、「もっと本校の見本林を利用してもらいたい」、「樹木について学んでもらいたい」という思いから、この活動をスタートしました。

研究の内容・成果

【研究の内容】

○見本林の強み

実施計画を立案するにあたり、見本林(写真1)の強みは何かを話し合いました。すると、多種多様かつ珍しい樹木がある、四季を感じられる森林、エゾリスやアカゲラなどの野生動物がいるなどがあげられ、これらの強みを生かした活動を実践していくこととしました。

また、見本林を利用するにあたり、見本林の利用に係る現状を把握するため、日頃から授業で見本林を利用している全森林科学科生徒の108名にアンケートをとりました(図1)。

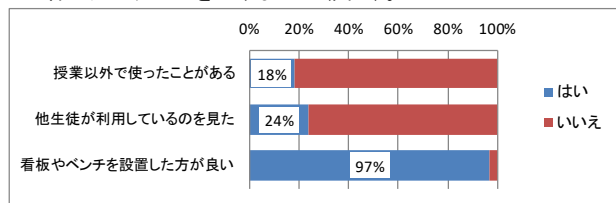


図1 見本林の利用に対するアンケート(一部抜粋)

その結果、森林科学科生徒の授業以外の利用や、森林科学科以外の生徒の利用の低さが目立ちました。また、憩いの場にするためには樹木看板やベンチなどの設置が欠かせないことが把握できました。

○実施計画

見本林の課題を解決し、利用しやすい見本林にするため、以下の計画を立てました(2021年)。

- 1 見本林内の環境整備を行う。
- 2 見本林の樹木同定を行う。
- 3 遊歩道を製作する。
- 4 樹木看板を製作する。
- 5 ベンチや巣箱などを製作する。



👉 計画をもとに完成予想図を作成(図2) 図2 見本林完成予想図

※1と2については、2021年に活動済み

【課題】

見本林が利用されない理由を話し合ったところ、以下の3点があげられました。

- ①案内看板や目立つ入口がなく、入って良い場所かどうか分かりづらい(開放されているかわかりづらい森林)。
- ②樹木看板がないため、樹木について理解を深めることができない(樹木をみるだけの森林)。
- ③見本林内には樹木しかないため、面白くない。

以上の項目を課題として捉え、見本林をアピールしていく必要がある。

《利用しやすく、樹木について学ぶことのできる見本林を目指す》

【活動の内容】

○遊歩道の製作

まず、遊歩道の縁となる駒づくりから始めました(写真2)。材料は、月形演習林で間伐した直径5~12cmほどの小径木としました。演習林から運んできたトドマツの樹皮を剥いだ後、乾燥させてから30cmくらいの長さを目安としてチェーンソーで切って先を尖らせました。

続いて遊歩道づくりです。遊歩道の計画線に沿って、遊歩道の縁をスコップで掘りました。そして、駒を1つ1つ丁寧に埋めて固定していきました。縁が完成したところで、通路となる場所にトドマツをチップパーで粉碎した木質チップを撒きました。木質チップを撒くことで、歩行の際に足が地面から受ける衝撃を抑えるとともに、雑草の発生が抑制されるため完成後の管理が容易になります。

こうして、駒を1500個ほど利用して作成した約75mにわたる遊歩道を完成させることができました(写真3)、予想以上に遊歩道づくりに時間がかかってしまいました。



写真2 遊歩道の縁となる駒



写真3 遊歩道の縁の作成

○樹木看板の製作

2021年に見本林内の樹木同定を行いました。その結果、約0.2haに164本38種の樹木があることがわかりました。樹木看板は、220mm×170mm×15mmの板を用意して作成しました(写真4)。作成した看板は来年度に設置予定です(写真5)。



写真4 樹木看板の作成

【看板の作成手順】

- ①文字をカーボン紙で板に複写。
- ②ハンドルーターで、複写した文字を削る。
- ③削った溝に水性塗料を施す。
- ④表面を磨き、木材の保護剤を全面に塗布する。



写真5 樹木看板

【成果】

遊歩道と樹木看板は完成しましたが、大規模な活動となり、すべての計画が終了しませんでした。引き続き来年度に実施していく予定です。《来年度に樹木看板やベンチ、巣箱などを作成する》

今後の展開

見本林とは、様々な樹木を観察するためや、ほかの地域から持ってきた樹木がその土地で育つかどうかなどの調査をするための森林です。本校にある見本林は両方の目的を担っていますが、それらの役割以外にも「人や動物たちの憩いの場」となるような地域に開かれた利用しやすい見本林を目指して今後もこの活動を継続していきたいと考えています。